



変形性膝関節炎で整形外科に通院し、ヒアルロン酸注射や靴のインソール製作といった対症療法をしていますが、痛みはなくなりません。保険適用が始まった自家培養軟骨(シヤック)とはどんな治療で、膝の完治も期待できるのでしょうか。(62歳、女性)

### 変形性膝関節症の最新治療

変形性膝関節症は、加齢や負担の蓄積で関節のクッションである軟骨がすり減り、痛みが生じる病気です。初期には投薬(湿布や経口の消炎鎮痛剤)、四頭筋筋力強化を中心としたリハビリ治療、ヒアルロン酸注射やインソールなどの保存療法が行われます

を「骨切り術」を行うこともあります。ご質問の「自家培養軟骨(シヤック)」はこれらの手術に至る前の段階で、保存療法を続けても改善が見られない方に検討していただける最新の再生医療です。従来は外傷性の軟骨損傷に対してのみ使用

「骨」で埋めるのが限界でしたが、シヤックは自身の軟骨細胞を培養し、この「硝子軟骨」を再生させて欠損部を補填できる唯一の治療法で、正常な関節の状態に最も近い状態への回復が期待できます。治療には2回の手術を要します。1回目は関節鏡で少量

治療対象にならない場合もあります。まずは現在の状態を正確に診断し、最適なタイミングを専門医と相談してください。(兵庫県医師会、星野祐一 神戸大医学部付属病院整形外科講師)

◆第1、3、4日曜に掲載します。

## 自身の細胞使用、画期的選択肢

が、これらは主に痛みを和らげる対症療法です。

一度失われた軟骨は再生せず、進行すれば関節そのものを金属に置き換える「人工膝関節置換術」が必要になります。日本人に多いO脚変形が背景にあると骨を切つて角度を矯正し、体重のかかる位置

可能でしたが、2026年1月より一定の条件を満たす変形性膝関節症にも保険適用が拡大されました。

本来、関節の表面は「硝子軟骨」という滑らかで弾力のある特殊な組織で覆われています。これまでの治療では軟骨の損傷部を硬い「線維軟

の軟骨を採取し、約4週間かけて培養した後、2回目の手術で移植します。移植後は数週間の入院が必要で、段階的なリハビリが膝の機能を戻す鍵となります。

自身の細胞で膝の若返りを目指せる画期的な選択肢ですが、変形の度合いによっては